

令和6年度小学生すくすくウォッチの結果概要

大阪府教育庁市町村教育室小中学校課

○目的：子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

○実施日：令和6年4月17日～25日 ※期間内で学校が実施日を決定

○対象：小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年

○実施児童数 5年生：65,070人
6年生：66,036人 合計：131,106人

○内容：5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート

○児童への資料「ウォッチシート（個人票）」の提供
【記載内容】

- ・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよところ
- ・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよところ
- ・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

【わくわく問題（教科横断型問題）】小学校5・6年生実施

文章や図・表・グラフ・ホームページ等を読んで、自分の考えを書く問題。答えは1つではないものもある。

分類	区分	平均正答率 (%)		
		R6 5・6年	R5 5・6年	
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	65.6	80.0	
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	56.5	56.9	
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	68.8	75.4	
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	74.3	68.6	
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	85.3	89.5	
出題内容	問題をとらえる	文章から読み取る	66.5	77.3
		会話から読み取る	56.8	73.9
		図や表から読み取る	60.2	66.8
	伝える	資料の情報を整理して伝える	61.7	64.4
		自身で考えたことを伝える	74.3	78.7
	理由や根拠を明確にして伝える	68.8	71.0	

- 良好**
- 1つの資料から内容を読み取り、その内容を示したイラストとして適切なものを選ぶこと
 - 資料の内容をまとめた文章の正誤を判断すること
 - 自由な発想で自分の考えや思いをかくこと
- 課題**
- 表や文章などの資料と会話文とを関連付けて論理的に考えること
 - 会話と図やフローチャートから与えられた情報を理解して、その内容を関連付けて考えること
 - 複数の資料から内容を整理するときに、共通点を正確に見つけ出し記述すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★文章を読んでいて内容がわからなくなったときは、もう一度読み直すようにして、書き手が伝えたいことの中となる言葉や文を見つけるようにしましょう。
- ★図や表、文章などを読み取り、整理するときは、シンキングツールを使うなどして共通することやちがっていることを見つけるようにしましょう。
- ★自分の考えを伝えるときは、なぜそう考えたかという理由や根拠もあわせて相手に伝えるようにしましょう。
- ★自分の好きなことや「気になるな」と思ったことなどについて、本やインターネットで調べたり、周りの人に聞いたたりして、興味や関心を広げていきましょう。

【国語】小学校5年生実施

学びの基盤となる言語能力のうち、「知識・技能」を中心に出題。

分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 75.0 (2) 情報の扱い方に関する事項 70.7 (3) 我が国の言語文化に関する事項 51.3
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと - 書くこと 64.9 読むこと -
	知識・技能	73.4
評価の観点	思考・判断・表現	64.9

良好

- 文を読み指示語の示す内容をとらえること
- 修飾語と被修飾語の関係をとらえること
- 主語と述語の関係に注意して述語の部分を正しく書くこと
- 文と文の意味のつながりを考えながら適切な表現を使って一文で書くこと

【これからの学習に向けたアドバイス】
★文章を書いた後には、読み手に内容が正確に伝わるかどうか読み直すようにしましょう。
★文のつながりを考えて、意味の通る文になっているか確かめるようにしましょう。

【算数】小学校5年生実施

大阪の小学生が特に苦手としている領域を中心に出題。

分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	数と計算	38.4
	図形	30.4
	測定／変化と関係 データの活用	38.4 44.6
評価の観点	知識・技能	42.5
	思考・判断・表現	32.2

課題

- 問題を読み取り、条件に合わせて、図形の面積を求める式を立てること
- 円と長方形の性質のちがいに着目し、算数で使われる用語を使って説明すること

【これからの学習に向けたアドバイス】
★問題文をよく読んで、答えを求めるために必要な数値が何か、その数値はどうしたら求められるか、考えましょう。
★円や長方形などの図形には、半径の長さや辺と辺の関係など、どのような特徴があるのか、身の回りにあるものから考えてみましょう。

【理科】小学校5・6年生実施

大阪の小学生が特に苦手としている領域を中心に出題。

※大問2問のうち1問は5・6年共通。1問は別問題を実施。

(5年)	分類	区分	平均正答率 (%)	(6年)	分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	学習指導要領の領域等	エネルギー	60.4	学習指導要領の領域等	学習指導要領の領域等	エネルギー	63.4
		粒子	74.9			粒子	75.9
		生命	86.4			生命	82.0
		地球	48.4			地球	40.3
評価の観点	評価の観点	知識・技能	67.3	評価の観点	評価の観点	知識・技能	69.9
		思考・判断・表現	52.5			思考・判断・表現	52.7

良好

- 虫めがねを使って黒い紙を燃やすときに、日光の集め方によるあたたかさの変化を理解すること

課題

- 水は沸騰しなくても、蒸発して水蒸気となり空気中に含まれていくことを説明すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

★理科で学習した内容とふだんの生活を結び付けて考えたり、「不思議だな」と思った現象について、その理由を理科の知識を使って考えたりしましょう。

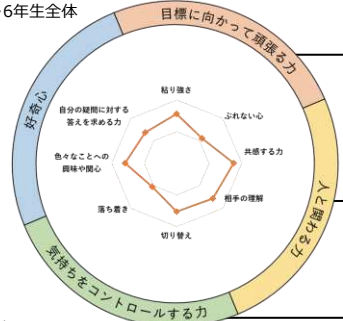
令和6年度小学生すくすくウォッチの結果概要 ～アンケート～

「未来に向かう力」と「好奇心」について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大事です。非認知能力について、大阪府教育庁では、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つとし「未来に向かう力」(※)として定義しました。また、新たな知識や経験を探究する原動力となる「好奇心」も大事と考え、アンケートによりその状況もたずねました。大阪の子どもたちの全体の傾向として、「未来に向かう力」のうち、「人と関わる力」が他の力に比べて高いという結果でした。一方、「目標に向かって頑張る力」のうちの「ぶれない心」や、「気持ちをコントロールする力」のうちの「落ち着き」が、他の観点に比べると、低い傾向であるという結果でした。また、「好奇心」のうち、「いろいろなことへの興味や関心」は「自分の疑問に対する答えを求める力」と比べて高いという結果でした。

※参考(※)『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』リーフレット ダウンロードページ
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/5937/hi-ninchi-web-bara_part2.pdf

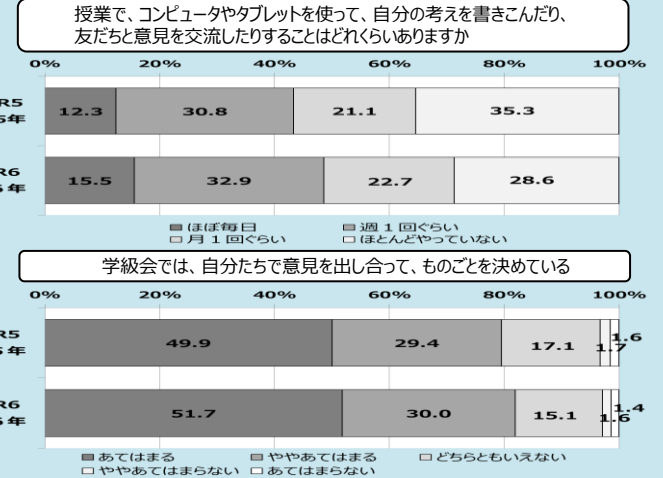
5・6年生全体



未来に向かう力

今年度(6年生時)と昨年度(5年生時)との同一集団の経年比較

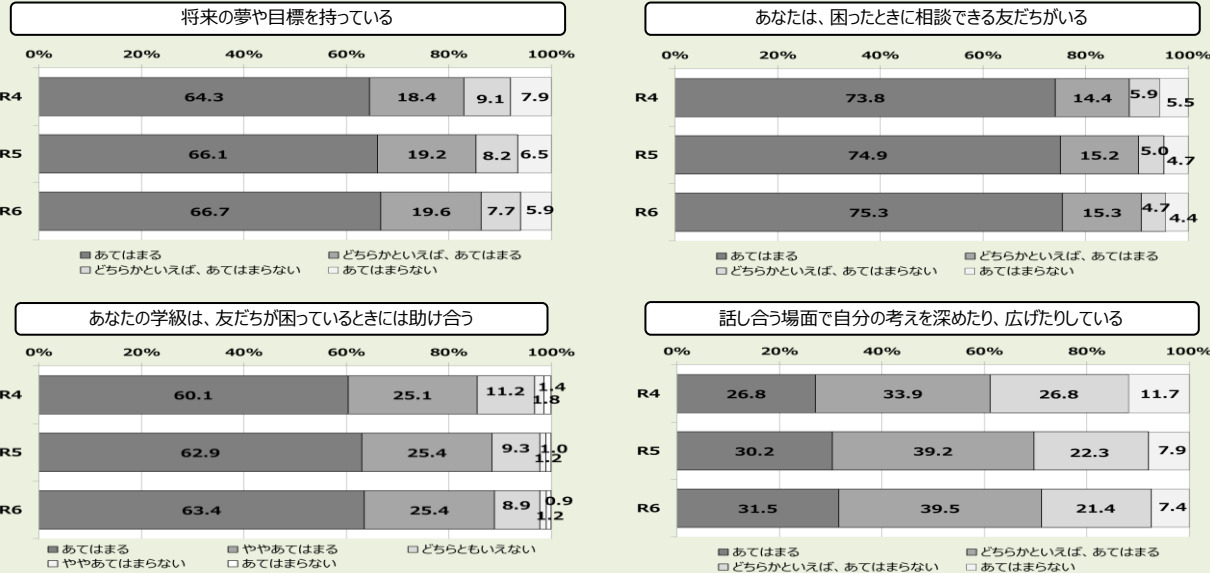
※その他・無回答の数値は示していません



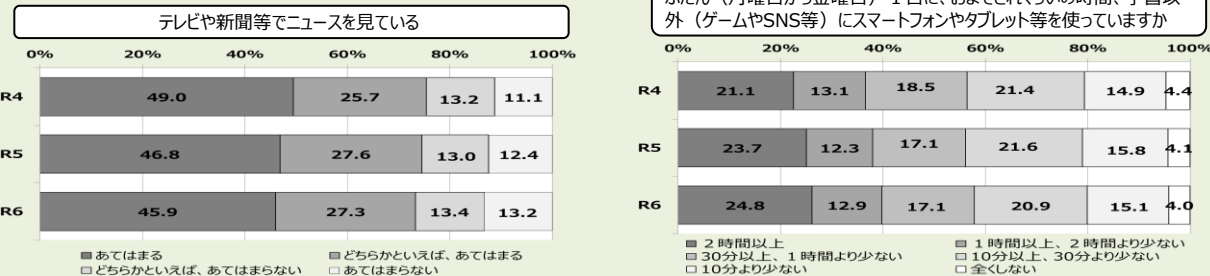
児童アンケート(5・6年生) 令和4年度から3年間の経年比較

※その他・無回答の数値は示していません

【肯定的な回答の割合が増加した項目】



【課題と考えられる項目】



児童アンケートから、「将来の夢や目標を持っている」、「あなたは、困ったときに相談できる友だちがいる」や「あなたの学級は、友だちが困っているときには助け合う」と思う子どもの割合がこの3年間で増えてきていることがわかりました。また、「話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている」と感じている子どもの割合も増加傾向にあります。自分の意見や気持ちを安心して表現できる環境が、学びを深め、興味や関心を広げていくことにつながっています。

一方で、テレビや新聞でニュースを見ていない児童や、長時間スマートフォンやタブレット等を使っている児童の割合が増えていることは課題と捉えています。社会で起こっているさまざまな出来事について、テレビや新聞のニュースを通して知ることによって新たな発見をすることができます。インターネットのニュースは、あなたが過去に調べたことや読んだ記事をもとに、あなたが興味を持ちそうな内容を中心に表示されるので、新たな発見にはつながりにくい面があります。自分の世界を広げるために、テレビや新聞のニュースに触れる機会を作ってみましょう。また、スマートフォンやタブレット等を使ってゲームやSNS等に必要以上に時間を使ってしまうないようにしましょう。自分で時間の管理ができないときは、お家の人とルールを決めることも必要です。

今年度の6年生の回答を昨年度5年生だった時の回答と比べると、「授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか」という質問に、「ほぼ毎日」、「週1回くらい」と回答した割合が増加しています。授業の中で、自分の考えを持ち、友だちと意見交流することによって、学びが深まります。また、「学級会では、自分たちで意見を出し合って、ものごとを決めている」という回答の割合が増加しています。授業以外の場においても意見を出し合い、相手の意見も大切にしながら、より良い考えを見い出せるようにすることが大切です。

- 今回お知らせの結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。
 - 小学生すくすくウォッチの問題および解答については、以下のURLよりご覧いただけます。
- 令和6年度小学生すくすくウォッチ

https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/sukusuku/r6_monndai.html